

福島第一原発事故における東北大学での緊急被ばく対応について

宮城県立がんセンター 小野寺 保

東北大学での被ばくスクリーニングについて

東北大病院では、県からの要請を受けて、早い段階からその準備を整えていました。はじめは病院PET棟にスクリーニング場所を設けて、除洗等をおこなっていましたが、その後、人数の増加や場所の問題もあり、保健学科の正面にある「星陵体育館」に臨時のスクリーニング場所を設置しました。

その後、東北大だけでは、対応できないとのことで、県を通じて県立病院にも派遣要請があり、私と松下先生(放射線治療科長)が応援に駆けつけました。

3月21日時点では、200人を超える避難者のスクリーニングを行いました。

宮城県内では、これまで女川原発の事故を想定した原子力防災訓練を行っていました。福島原発からの避難者を想定をしていなかったのですが、東北大学病院スタッフや、東北大学医学部保健学科教官らの迅速な行動と献身的な協力により、適切に対応できたのではないかと思います。

また、県庁内に設置された「原発事故相談窓口」にも、多くのスタッフが駆けつけ電話相談に応じていました。

今回のまさに「想定外」の事故に、さまざまな問題点も浮かび上がってきました。今回の事故を教訓に、これからの対応を含めて改めて考え直さなくてはならないと思いました。



入口でのスクリーニングの様子



カウントが高い靴をさらに詳しく検査する



医師による問診の様子